

文化

東京MXのテレビ番組「ニコース女子」の内容に抗議する有吉が繰り広げた「サウンドデモ」。約100人が参加し、番組内容の訂正と謝罪を求めた=2017年6月22日、東京都内



皆川 博子



穴から

れ

絵・吉村誠高

みながわ・ひろこ 1930年ソウル生まれ。ミズリーから時代小説、幻想小説まで幅広く手掛け、「恋社」で直木賞、「死の泉」で吉川英治文学賞を受賞した。2015年には文化功労者にも選ばれた。

る。マッキンタイア一の著書は、現在も残る移民村探訪記とエリーザベットの伝記をない交せて構成している。ちよと長編連載の依頼がきいた。新ジャンルニアを掲ぐたい、ミミミ

ドウマゴ賞に 松浦寿輝さん

すばる文学賞 山岡ミヤさん

第27回ドウマゴ文学賞は作家トランス文学者で東京大名誉教授、松浦寿輝さんの小説「名譽と懺悔」(新潮社)が選ばれた。

第41回すばる文学賞(集英社主催)は5日、山岡ミヤさんの「光点」に佳作は東京大いさんの「遊歩」(新潮社)が選ばれた。

で痕跡が損壊したにもかかわらず、遺構の追跡地点となった「浦上第一病院」一部とみられる赤れんが遺構が発掘された。明らか

被爆病院の遺構発掘か

長崎市、保存へ調査

長崎市は5日、長崎県

やましろ・おなか。映像作家。

◇第1、

部屋に入る 幼い田畑に見守る部屋に目を細めると、た母の顔が。左の壁の障子が3がひっくり返ると、指先で壁を伝い、間のせいでしたん夜くと動く。壁にとノコトノと、しる小さな兄弟。り聴き比べ、野ば肌はまだ境界が無る。ぐるりと左肩と横たわる年老、窓の外で揺れている。優しく見つめる。いざの香りと蘇りにぐるりと半田

琉球

まふた

それは必ずしも、ネットの動画配信に放送と同じような厳しいルールを適用すればよい、という単純な話ではないからだ。むしろネット上は、より自由な言論が保障されるべきであつて、あえていえば、公平でないものも、嘘かもしれないものも、当然に存在するのが一般的だ。それを公権力によって取り締まることは、社会全体の自由を狭めてしまつたという意味で好ましくない。

一方、放送と同様とはいっても、一定の社会的責任を負う場合もありうるわけで、すでにネット企業の法的社会的役割が「青少年の保護」や「忘れられる権利」として議論されてきている。その意味では今回の「ニコース女子」の件は、放送を越えた動画配信サイトのあり方も問われているといつことになる。そんな体を切り分け、放送局が大手ポータルに家を運ぶこともあつたかもしれない。近い将来、テレビ番組のネット配信も開始される予定だが、地上波放送とインターネットの相互乗り入れが進む中で、守るべきルールをどのように適用するのかが、難しい課題を背負つていられる。

ところが、問題となつた放送回(91回)の少しおとには「検証」番組(101回)として、ネット批判に対するいわば議論が動画配信されたが、これは地上波放送局である以テテレビでは放映されていない。まさに「持ち込み番組」であつても、局はその内容に責任を負わねばならない。また、制作会社は局が定めるガイドラインに従つた番組でなくてはならないとい

局も制作会社も責務

ネットと並列、新たな難題

二つの事実 一方で、冒頭に触れた「ニコース女子」番組は、新たな問題も提起している。同番組は、もともとインターネット上の動画配信サイト「DHCテレビ」(17年4月にDHCシタタ1から名称変更)のオリジナルコンテンツの1つで、それをDHCがポータルとなって全18局に提供、オンエアされる構図になつて

制作会社とのパートナーシップに触れている点である。放送局の場合、番組の多くは「自社制作」と言っても、実際は、制作会社がその業務を負っている場合が多い。報道番組に比べ、情報系・バラエティ系の番組やドラマ等の制作は、社外プロデューサーが形式的にいるものの、ほとんど制作を別会社に委託している場合も少なくないのが実情だ。実際、放送される番組のエンドロールを見れば

分かる通り、制作者は、局名は違ふ名称の会社であるのが一般的だ。場合によっては、下請けと呼ばれるものだが、むしろ番組制作の専門会社が作った完成品を購入しているという場合も多い。

報道倫理 だからと局と制作会社の「パートナーシップ」が重要になるわけで、もちろん下請け「業務委託」であるとしても、完全パッケージの

で、一般に公的エッセイなどの「会社概要」ページなどに掲載されていることが多い。全国に約200社ある放送局は原則、加盟する日本民間放送連盟が定める規程のことによって作成されている。

もちろん、このように具体的悪い点ではなく、長年の経験と検討の結果の業界スタンダードに合わせて、とりわけ特徴的なのは

番組送り手の在り方

メディア時評

(9月)

山田 健太

9月中旬に、沖縄へ行って問題視された東京メトロポリタンテレビジョン「ニコース女子」の検証番組改め再取材番組が放映予定だ。同時並行で進むBPO審議や審理の結果も、秋には公表されるだろう。ここでは、こうした放送番組の送り手の在り方を、確認しておきたい。

パートナーシップ 放送の場合、何がよくて何が許されないのかは、放送局によつて定められている「番組基準」による。この基準は放送法の規定に基づいて策定・公表が義務付けられているもの

認しておきたい。 パートナーシップ 放送の場合、何がよくて何が許されないのかは、放送局によつて定められている「番組基準」による。この基準は放送法の規定に基づいて策定・公表が義務付けられているもの